



平砂

東故

東寓

買明

瀨

再賢

百泰

百陽

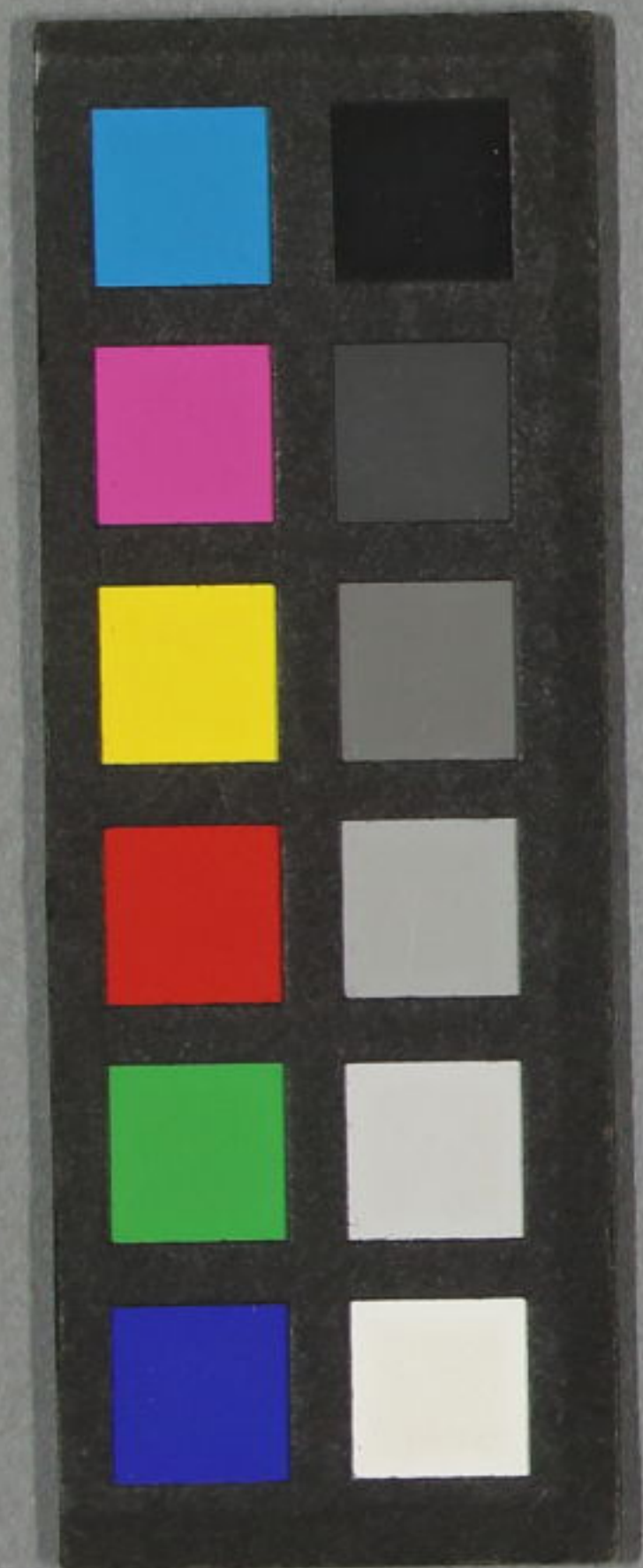
玉牙

泉波

誦諧鐫 十九編

七冊之內
止

5
1928
13



1928
13

世に
名を
傳へ
し

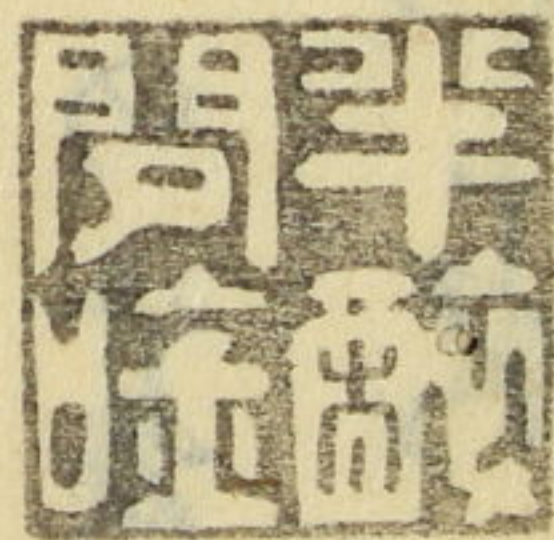
乃りけふの夏乃
秋の夕糸を乃
早り遠りと判
人ししのま
かゝるハ世し
のあしひ

文化の己卯亥

研

を牛らる

南山本



萬葉卷

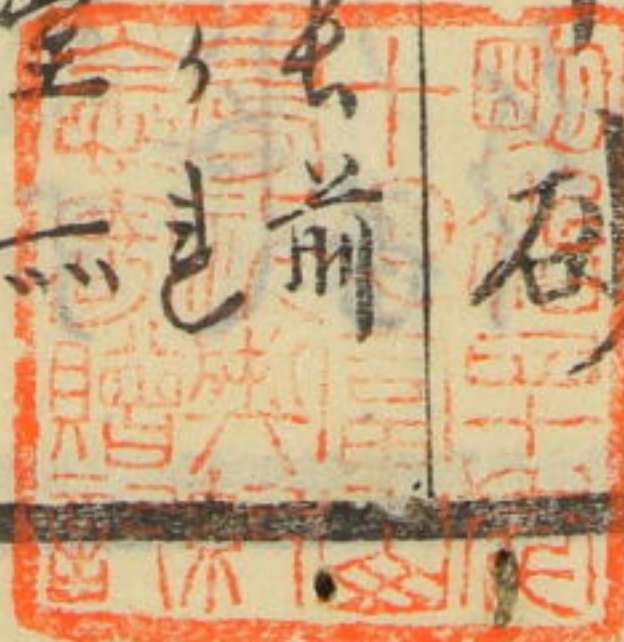
東神草紙あり
 別名神合の味ハ
 枕詞の末も死と
 宗とす初編より
 著しあつて
 海よりて後弱ハ
 行はれ好む所ハ
 取しつるやと
 又と終時よし
 分信とす海心と
 よする人の心も
 信則を首編よ
 ありしと神合と
 ありしとす
 公道とすありしとす

江戸坐一列

平磯側

皋月・平磯

和さき守花らる里に灰を前
 葛城の津と裁て起わらる
 太くごんごゆ原の是
 信衣と熟れ座の土と
 鬼王とゆらぬらハ
 先智と三味線管と
 作ひささハ古里波と小
 遺を寺に清と形造と
 形造の度姿法と
 分捕れ附まられぬ
 きとるは賃出で裸乃
 菊乃名と依珠あれど
 水新と夏山吹の令洗
 床はよもても床のさ



炭俵のふり
毒一全半合
りり半合
送る人きり
脂利りり

淡路草

艾人軒

強弱くも小
夕とすりく
は五合一前
ろりりりり
かきりりり
道具更
下子あ
見て考
十八第

恋りつもほそ布は織
よとてりりる根は智大所
尼もりりり中琴はか
梅りりりの葉は色も好
林系も守袋りりりりり
ふりりりりりりりりり
中英ハ松二人
根りりりりりりりりり
朽麵は少坊は
むりりりりりりりりり
神國の三
色昂是空果ハ
指りりりりりりりりり
初言ハ表をばま
春寒ハ六倍油のか

泉月東寓

水鶴りりりりりりりりり
変ハりりりりりりりりり
夜りりりりりりりりり
今川りりりりりりりりり
牽りりりりりりりりり
は掛文庫りりりりりりり
孟れりりりりりりりりり
隣の温泉者りりりりりりり
るりりりりりりりりりり
夜明りりりりりりりりり
朱搦の飯は食りりりりりりり
覇王樹のむつきりりりりりりり

十八第

淡い海

情は流るる河彼の燦爛
引窓は合遠つと枝欄帯
真をふとハ揚よひふふ身
本上候の縁とすしめるを也一
孝れ乃徳と天狗の皮しり
赤きとす利くく兄
歌ふもあふこしてされおの意
沖乃ふも癩れとど
櫻咲山ハを月小明子一
君も別道の跡をきき
一心上雨陀を唱と一断の所
帆ハ張りきる小初らさぬ船
ふむ化ハ簾さる声鳥丸
信年一日文人乃像
箕の中小時雪今午
千両株乃多い五交内

獨歩菴

強弱交る一
丁て十八編
不習非情と
有信しとい
うしる向は
禪茶奥
鎌倉江戸
地名

文買明

葛修既乃魂る透
本比の炉縁とらり年明
四睡乃新れもく乃癖
又米桂よ六の音
合セさるも更衣なり
嘘とさるもて多使いけり
一刀三乳突也一れ髪
あし道とすて難け
仮の法を乃新造の床
干んか肥る貨傘の癖
坐彈乃耳ハぐんと沙の蚊
若と服はして不ニの粧い
雪と着て原る竹のまをマ
きり人の笑いとくくのう

女
謙堂
茶

謙堂

法弱まろく
おふりし海との
自休とくくして
俗くそ麻糸
かすくさるぬ
をくくくく
道にハラの愛化
才一とえの消へ
えおしてぬの
をくくく
山火 ちん
極め 清き
異色ニウの
急むく
在作の白持
取く神徳の

不識とそよ新造の噓
及陣去呆と清正のう
湯豆腐の原を原とすく
生酔と毎の出しして
とちくもたぐきつる
謙倉ハ畑ノノの名田
後秘を粒砂むる茶の
所く乃濃茶ハ急の部
紫ゆ花も果ハ急の部
肉色の茶 吟の仲の
おろくく恵心の作の
本ていこく川邊
蓮池バヤハ並ハ傘
鉛餅と清正云々 乃
冬籠えいまでよい茶履取

笠原瀾山

ふく 蠅一ツニツ小春ハ
さく 未の日の界
四五端の山吹涼
空くもかろるる
石ををくくく
此島ハニツ松の
峰の法狼
神酒陶轉く
ゆり込ちちハ
峰入の下ハむく
葛の蔓

清き白き...
考ふ金...
是の通り

回雪菴

神祇 釈教
尼 姫 老
髮 酒 雪
笑 人
名 所 立 作
植 物 火 体
傘 笠
才一をり

狐怖く...
家の...
新造二人...
田舎ハ...
三夜...
軒...
常...
堀井戸...
後炮の音...

小倉再賀

舟...
一巻...
扇...
不...
字...
出...
薪...
洗...
年...

田雲登

百五母へさし傘のたしはるるも
 皮きりりこ火といつてまらと行
 美人の如く新しき似合を
 息をい人比益すぬ身の室
 灘もまじりこい治橋の船
 伸もも子のむい山月と膝の下
 小粒と換て候隙海乃金
 一面疲はるぬ乳黄ひ
 治かして今更なる傘の辞宜
 貧乏圍り雪はほは災
 母の未胡の笑ふこころ子
 存通に括きして行始めを
 雪州よりいれぬふ草帯
 娘と帯り方のいつれ
 女向ぬらりら墓らるる芥子
 丸義長は火いれれる青柳

指月亭

一祈法さう方く
 りとと力と仕主
 又又出さる相
 又又指月か
 右の指はりま
 好愛のたをよ
 一与曲字あまハ
 一と長く
 十八偏とて合と
 一

高木百泰

群集乃中よ裸目よま
 のらも若う持業し黄いけ
 眼目もゆらぬ美女乃白行
 珠の怪有互よ云を代り合
 多場は朝し病しをく舟
 羨者と連とあはれ 捜りく
 刊立天志杖とま
 此と孤不乃其の法
 縁方ぬれう清田の夏
 美病の業 呼くを
 歴こも摩とがぬる一縁
 ちと仕方のえぬ木出
 一を梅の気象て用く雲の
 栗洲の結古比獄てて

和名抄の文字がぼやけて読めない

一桑林

汁液 釋
植物 生れ
屯居 人名
在野 居の号
月出る白化
厚みれ
澤舟也
を所よりわす

和名抄あ(一)怪函一ツなす、山近ま
四、這い上るを、と母と遊作り
紙衣好織三味係 二十一年
服盛と旅形あれた、あわききて
格、きいて、(一)角力
車油の中と、灰、一室、
振、か、り、り、魔所、一、賽、
此、く、く、く、く、く、く、く、
意童の取りて、砂、く、く、
乳守、一、表、一、田、ま、こ、
文、武、二、道、と、兼、一、
梅、と、も、こ、く、く、く、
位、止、ぬ、子、く、く、く、
鯉、の、貨、や、飲、中、
一、浅、積、つ、く、既、大、
仙、山、伏、尉、梅、

皐月百陽

後、い、く、松、風、け、次、く、
桜、い、く、ろ、く、く、く、
油、一、家、置、く、く、佛、の、
礎、に、あ、ぬ、神、れ、所、
悪、を、憂、一、白、く、
子、福、者、の、そ、く、
舟、の、お、く、
夜、汁、樂、れ、舞、く、
親、の、親、子、れ、
括、き、ひ、の、
夕、影、の、
星、の、
先、伊、勢、
葵、情、の、

[Faint bleed-through text from the reverse side]

いとと出る妹も養ひて 廿日草
他宗と縁と母ハむすむと
時鳥定らハゆけて 宿比花
お汁ハ仕度 棒 何トイハ言
浮船のそ庵の 書風ありもさ
花いさく 戸 先生
紫陽花や人もさく 先生
文字新くぬ 鄙も楮の花咲く
樟脳白ふ 幽霊の出
八日市切ら 賣らる 古 椀
さきのの上 留場のみ 吟子
女席に女席 買ハセ 大 臣
彩造れ 味原信一 屏風 哉
鏡臺の流と けく 菱の志
女 柳 筑山 菊
旗橋の柳も 蟬の 釣よ

獨菴裡

一折弱き方と
十八編山 山
云柳堂 孫河内 松内
とい合をいる句は
汎り 松の 乃 松
彼を彼すく 乃 松
れハ 日蓮 聖人
の所 一代 奥州 地名
江戸地名

宇野鼻波

心けり 乃 乃 乃 乃 乃 乃
白き 乃 乃 乃 乃 乃 乃
舟宿ハ 大小 乃 乃 乃
人目と 乃 乃 乃 乃 乃
行や 乃 乃 乃 乃 乃
娘ゆ 乃 乃 乃 乃 乃
いろは 乃 乃 乃 乃 乃
帯 乃 乃 乃 乃 乃
号乃 乃 乃 乃 乃
え日と 乃 乃 乃 乃 乃
隣子 乃 乃 乃 乃 乃
江島 乃 乃 乃 乃 乃
三存 乃 乃 乃 乃 乃

眼鏡をがして抱ケハ抱ケ子
 子ノ子レヤ〜世活〜母
 寐ま〜夢沖を解ぬ立力
 之終卯園と云ふ子をわ〜
 乞〜ハ〜後てない夜紋取
 意凡と云敬あ〜膝〜
 何五〜雪と替〜
 扱系を〜松屋の表も子の目か
 扱〜扱を扱と 二丁町
 言レ日ハ女房ノ喧と夕〜
 石の上さま、仲居の取ま〜
 姑ろ〜ケ〜ハ〜新らぬ
 音張〜何と云とて床〜格
 あ〜多分秀参〜
 破られて子ハ又凡中〜
 遠〜から〜十〜十乃玉子苞

星運堂訓書

水取山十のり川 此座久次郎

誹諧譚

京都中道高島并御句集 笑谷散人並山崎

一編出

四季發句帳

京都總宗也發句 是川若君御句

今後編 全一

家雅見種

南山 京都總宗也書所

杖竿 反故齋果然著 高島重一巻宛

靈阿加梨

善十庵 浪守西氏 著并句 洲合發句

今後編 全上

薄暮川

諸君ノ古語并句ノ各句 櫻ハハ今〜川〜相成 狂〜カワリ〜候ハ山板屋

今後編 全上

多景津句

白萩剛高島前 句集

遠筑波 有義 一巻宛

新書目

古来庵句集

白義
發句

野史

白義
發句集

初稿

在義剛高直頭書洲
風光機

櫻台十二歌仙

在義剛
獨吟集

ぬきん

在義

飾墨

在義剛高直并頭書洲

日しり

可因

かき野

可因

ふきん

可因

古来庵句集

可因著
後集並別

長き日

可因

いそぎ

可因

きん

南書

春草集

在義剛高直并頭書洲

徳林

俳諧二代集

白義
發句

雙溪路談

其角坐宗近ノ墨像著
發句

吾妻

在義剛高直并頭書洲

野々錦

吉門島久句集

雙喜會儀

在轉権千句總評
高久ノ句

志のしり

祇徳高久
句集

秋晋問答

其角著
誹論書

いそぎ

江戸平高久
連任著

俳諧草子

半砂剛
十歌仙

附合高直部類

白玉松撰

樓川句集

編口撰

田女句集

上同

買明句集

寛義撰
近刻

俳諧平河

未通撰
不吉高直

正風 俳諧得道解

竟美著

俳諧百傳集

雄山健著

鶏口發句集

同列 句帳

松川句

雄山健著

さゆふし

鶏口共著 五十年自筆

山列月並句集

花鳥合

空馬撰 十二歌仙

才營發句集

空馬撰

空馬撰

空馬撰

空馬撰

空馬撰

玉流

雄川慶句

花實集

空馬撰

下七

空馬撰

面黃

空馬撰

綾錦集

菊園治涼撰 古今宗也系譜

全後編

此列

誹風柳橋

川柳乃句合鳥女著

每年一卷宛出版

柳橋拾遺

川柳乃句合鳥女著

全末摘花

今人力句合末列ノ可矣句

初篇より三篇出来

万句抄

平抄宗匠万句抄 鳥女著

俳諧百人句

空馬撰

江戸四天王

初篇より三篇出来

燕志月並發句集

若眼鏡

露一撰 開道貝ノ歌仙

蕉翁渡唐之像

石塚著

俳諧百十草

文未竟

同折花集

海嶺

同如是俳

在轉宗匠句

同十次俳解

立志

遊覽志

蘇島十景并著

心也山人

遷住年十五

山東遊覽志

高詠著

舞會金次以島三神箱根温泉不地不異勝

近在所名集

武江近在二限、又東海道
舞會京近在流行、所名

今後記

礎

漁著

當時流行、其、相

增補俳諧礎

百合花

舞會二、高、高、高

應上人

俳諧二冊了

山著

石林坐歌仙

百十鳥

園文發句

高判

同千里獨步

素綾著

同年代記

素綾著

香細記

同器新集

獨器中著

同後編

今上 出来

三篇翻出

桑林

岩松著

歌仙發句

俳諧宮野

平砂著

聖朝御年四集

俳諧五萬戈

得器著

五萬句高志

二見浮文臺記

兩山著

く手紙、乙夜、吹風、

か、接、總、の、

山著

か、接、總、の、

○靈門俳書類目錄

俳諧句抄紙

牛心著
西入讀句

同拔萃

廣天滿寺集
類面之度句

靈門發句帳

同
引之著

靈門

編
下刻

一陽片素外先生著

鷄談窓藏

梅翁發句集

類句辨

右ノリ類句ヲ並テ
見及リヨウロシセ
ルカ

江戸川

是ト蒼狐貞康ノ
前句一ノ真徳波川
做ル素外中歌之州句也

五色梅

素外連中梅題發句

右蒼狐
素外拍掌千句

蒼狐席々取ノ附句ヲヒビ
素外ノ句一ノ續リ千句ノ
ハルカ

一物連歌

室子素外所著遊歴作
得る同季同地と云ク
各指吟云也

古今七夕發句集

古今ノ色紙
ハ人書メ人
ハ人ハ人

紀行春集

素外所著
往來ノ各地

天狗

素外著
ノ記

手毎花

福井評物
高貞

面貫

素外著
ノ句

猿筑波集

附合夷白前句并
部分著

俳諧十歌僊

五七五七七
日菴著

同神田集

松仙古今復白
神田菴著

能稻社枯梅

平砂側附合
五回下流著

同神

梅

玉虎勝

玉虎勝
生下金井

東武多少庵俳書月

東武山下川
星運著
花屋久次郎

鹿島紀行

芭蕉翁自撰
鹿島門前句著

其葉裏

松籟庵終焉記著
百負身仙著
多少庵秋小撰

心之

風潮房右孫
四季而句并
附合句

夷竹道途

同門四季發句
并月庵遊之撰

續白時鳥

同門郭公句
并百負

兒午柏

其林 希因
梅路 梅久 涼袋
其竹吟句仙
幾句

遠東堂
樂山

句韻秀撰

白蓮堂
早回
多少庵秋小

柳尾發句集

松籟庵

甲子吟行

芭蕉翁真筆
波靜撰

大無發句集

松籟庵

如木之春

柯居傳系并句象
秋成撰

寬政百頁多小庵句集

...

阿向集後編

附錄...

...

...

...

...

...

...

寛政百箇年...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

力
廿七
...

